

かかりつけ薬剤師に 関する記事が 新聞に掲載されました!



決めよう! いつもの薬局



毎日新聞10月14日(金)
朝刊掲載

あなたは、ふだんから利用する 「かかりつけ」の薬局をお持ちですか?

処方せんを持っていけば、日本全国どの薬局でも薬を調剤してくれますが、顔なじみの薬剤師がいる『かかりつけ薬局』を一つ決めておくことを、私たちはおすすめしています。あなたが使用する薬を一つの薬局で管理することで、複数の医療機関から同じ薬が処方されたり、相互作用※が起きるのを防ぐことができるからです。

覚えていらっしゃる方は、昔の薬局を思い出してみてください。昔の薬局には、薬はもちろん日用雑貨やベビー用品、介護用品、化粧品まで生活に必要な様々なものが、ところ狭しと並んでいました。そして奥に進むとガラス張りの調剤室があって白衣を着た薬剤師がいましたね。薬剤師は薬のことはもちろん、健康に関する全般的なことから家庭の環境衛生のこと、子どもの理科の宿題まで、様々な疑問に答えていました。このことが、薬剤師が薬の専門家にとどまらず、「街の科学者」と呼ばれていた理由です。

昔に比べると内観こそずいぶん現代的になったものの、薬局は、処方せんによる薬以外にも、市販薬や健康食品などの販売から相談に至るまで、様々な役割を担っているのです。たとえば、かぜのひきはじめや頭痛でお困りのときに、症状に合わせて適切な市販薬を選択するお手伝いをしたり、場合によっては、受診をおすすめしたりします。また、親の介護の支援、消毒の方法など、薬剤師は、薬をはじめとした様々な知識をもって健康に関する疑問に答えられます。いつでも何でも気軽に相談できるかかりつけ薬局を一つ決めておくことが、皆さんの健康やより良い生活に役立つと、私たちは考えています。

いつでも皆さんの健康や生活を見守ることができる、かかりつけ薬局を決めてみませんか?

※注意を要する飲み合わせ

探そう! かかりつけ薬剤師



毎日新聞10月21日(金)
朝刊掲載

あなたには、薬に関することを 気軽に相談できる薬剤師がいますか?

あなたの健康づくりをサポートする「かかりつけ薬剤師」を探してみませんか。

少子高齢化が進む現在では、多くの病気を同時に抱えて、複数の医療機関から色々な作用をもった薬が処方され、服用している方が多くいらっしゃいます。薬の種類が多くなるほど、薬の飲み合わせには気をつけなければいけません。たとえば、同じ効きめの薬が重なって処方されていたり、効きめが弱くなる薬が組み合わさって処方されていたりすると、副作用の発生などのリスクがぐんと高くなったり、期待される効果が現れなかったりすることがあります。そのほかにも、市販薬や健康食品等と飲み合わせの注意が必要な薬や、食事の影響を受ける薬もあります。

薬の使用にまつわる様々なリスクも、ふだんから薬のことや健康のことを気軽に相談できる薬剤師がいれば安心です。かかりつけ薬剤師は、あなたがこれまでに使用してきた薬について記録したり、ふだんから使っている薬のことや摂取している健康食品などの情報を把握して、薬による治療をより効果的なものにするためにお手伝いします。また、副作用などが発生しないようサポートします。

まだ、かかりつけ薬剤師をお持ちでない方は、お住まいや職場などから近い薬局で、いつでも気軽に相談できるかかりつけ薬剤師を探されてはいかがでしょうか。

「でもどうやって決めようかな?」と思ったら、たとえば、薬が必要になって薬局を訪ねたとき、対応してくれた薬剤師と顔見知りになってみることをきっかけにしてもいいでしょうし、薬の相談会などを開催している薬局があれば、相談をきっかけにそこで顔見知りの薬剤師を作って気軽に相談してみるのも方法です。

薬に関する専門家であるかかりつけの薬剤師を持つことはとても重要です。